

7. 河川空間の利用状況

7-1. 河川敷等の利用状況

(1) 小川原湖

水辺の利用に関しては、小川原湖畔のキャンプ場や湖水浴場等でのレクリエーションや湖水まつり・花火大会等のイベントを通じて、周辺住民の憩いの場として利用されている。また、広大な湖面でのウィンドサーフィンやヨット等の水上スポーツ、ワカサギ釣りやシジミ採りなど四季折々に利用されている。さらに、近年では、湖周辺の小学生による小川原湖子どもサミットが開催されるなど、環境学習の場としても利用されている。



写真 7.1.1 小川原湖の利用状況



デーリー東北 H16.2.23 発刊

「デーリー東北新聞社提供」

(2)高瀬川（小川原湖～河口）

小川原湖より下流高瀬川では、左岸側を中心に、比較的広い高水敷が存在しないことから、主に水際・水面での利用が多い。利用内容は「釣り」が約70%を占めており、水遊び・散策なども行われている。右岸側は米軍による射爆練習場となっているため立ち入りができず、水辺の利用はされていない。

表 7.1.1 年間河川空間利用状況

（平成12年度河川水辺の国勢調査 河川空間利用実態調査 より）

区分	項目	年間推計値（千人）		利用状況の割合	
		平成9年度	平成12年度	平成9年度	平成12年度
利用形態別	スポーツ	0	0	散策等(18%)	散策等(3%)
	釣り	15	14	スポーツ(0%)	スポーツ(0%)
	水遊び	3	8		
	散策等	4	1		
	合計	22	23	水遊び(14%)	水遊び(36%)
利用場所別	水面	0	3	釣り(68%)	釣り(61%)
	水際	17	18	堤防(18%)	堤防(3%)
	高水敷	0	0	水面(2%)	水面(15%)
	堤防	4	1		
	合計	22	23	高水敷(0%)	高水敷(0%)

7-2 . 河川の利用状況

(1)内水面漁業

小川原湖における内水面漁業は、小川原湖漁業協同組合、六ヶ所村漁業協同組合ならびに三沢市漁業協同組合の3団体によって行われている。

内水面漁業(湖沼)の2001年漁獲高は穴道湖(島根県)に次いで全国第2位であり、主要漁獲種はヤマトシジミ、シラウオ、ワカサギとなっている。シジミは水深8m以浅に多く存在していることを除けば、シジミ、シラウオ、ワカサギともほぼ湖内全域で捕獲されている。

近年における漁獲高の状況をみると、平成6年(1994年)のシジミ大量斃死によって一時的に落ち込んだが、年々回復傾向にある。

漁獲高について近年の状況をみると、全体としては1999年までは徐々に減少し約30億円を下回る状況となった。その後は、シジミ漁獲量の増大それによる漁獲高の増加によって再び30億円を上回る状況となっている。

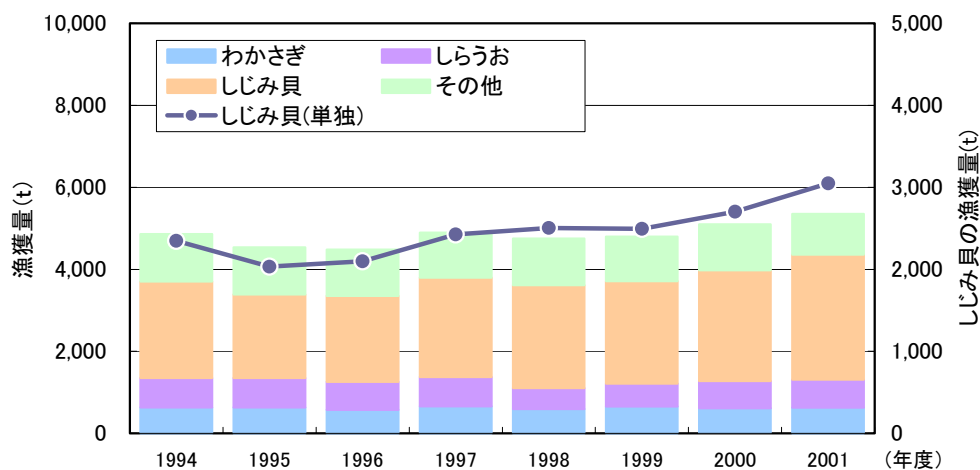


図 7.2.1 小川原湖における漁獲量の推移

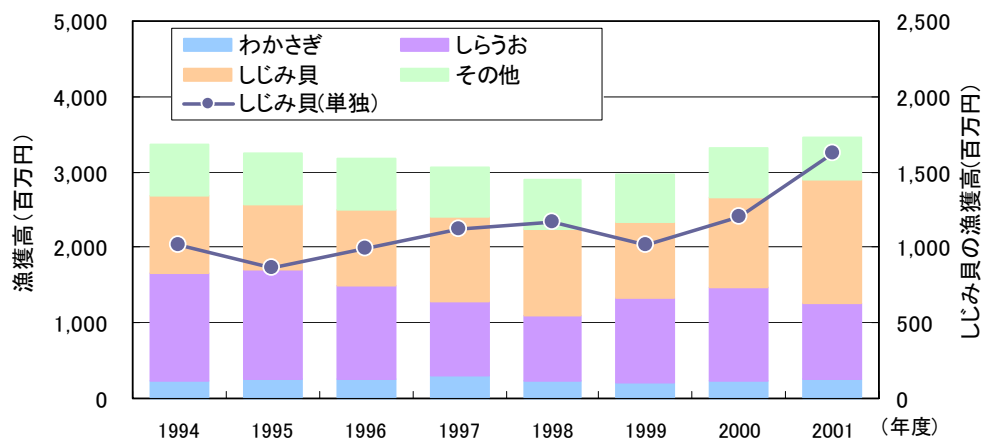


図 7.2.2 小川原湖における近年の漁獲高の推移

(2)舟運

小川原湖における舟運としては、過去に観光船「グルメシップ」が運航されていたが、平成14年度より運行中止となり、現在は、舟運の利用はない。